

大阪母子保健研究 4 1-49 ヶ月時追跡データの結果 妊娠中の乳製品及びカルシウム摂取と子どもの虫歯との関連

背景：妊娠中の乳製品摂取は、子どもの歯の健康に重要な働きをしているといわれていますが、母親の妊娠中の乳製品摂取と生まれた子の虫歯との関連に関する観察疫学研究はありません。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査、第1回～第4回追跡調査（生後4 1-49 ヶ月時）に参加した4 9 4名のうち、口腔内診査を受けた3 1 5名を対象としました。未処置歯あるいは処置歯のいずれかがある場合、虫歯有りと定義しました。母親の年齢、妊娠週数、家計の年収、両親の教育歴、妊娠中母親喫煙、子供の性別、母乳摂取、離乳食開始月齢、歯牙萌出月齢、第4回及び第5回追跡調査時の歯磨き頻度、フッ化物使用、定期的歯科健診、受動喫煙、口腔内診査時月齢及び第5回追跡調査時の子供の乳製品摂取頻度を交絡因子として補正しました。

結果：妊娠中の母親のチーズ摂取が最も少ない群に比較して、最もチーズ摂取の多い群では、有意に子の虫歯リスク低下と関連していました。また、チーズ摂取と子の虫歯のリスクの間には有意な負の量-反応関係も認めました（傾向性P値=0.01）。

総乳製品、ヨーグルト及び総カルシウム摂取は、子の虫歯リスク低下と関連する傾向が認められました。一方、牛乳摂取と虫歯リスクの間には統計学的に有意な関連はありませんでした。

結論：妊娠中の母親のチーズ摂取は、生まれた子の虫歯リスク減少に関連があるのかもしれませんが、また、ヨーグルトやカルシウムの摂取も、虫歯リスク減少と関連がありそうです。メカニズムの解明も含めて、さらなる研究が必要です。

出典： Tanaka K, Miyake Y, Sasaki S, Hirota Y. Dairy products and calcium intake during pregnancy and dental caries in children. *Nutr J.* 2012; 11: 33.

